切除不能な肝細胞癌（血清AFP値が400ng/mL以上）　　2nd line以降

Ramucirumab療法

（　　）コース目

患者ＩＤ：　@PATIENTID

患者氏名：　@PATIENTNAME

身長(cm)	体重(kg)	体表面積(m²)
$HEIGHT01_Doc	$WHEIGHT01_Doc	#VALUE!

投与ｽｹｼﾞｭｰﾙ：　１コース　１４日

使 用 基 準：　**血清AFP値が400ng/mL以上の患者**
Child-Pugh分類Aの患者

※ ラムシルマブ添付文書及び適性使用ガイドに準じて投与すること。
※ 高血圧・血栓塞栓症の患者は慎重投与
※ ネフローゼ症候群、蛋白尿があられることがあるので、尿蛋白を定期的に検査し、異常が認められた場合には、ラムシルマブの休薬、減量又は投与を中止など適切な処置を行うこと
※ ショック、アナフィラキシー様症状、Infusion reaction発現に要注意。
※ 原則、埋め込み式ポート挿入後は１週間以上空けて投与すること。

《 使 用 薬 剤 》

ラムシルマブ（RAM）：ラムシルマブ（100mg/10mL、500mg/50mL）

投与量：

薬　剤	標準投与量	計算値(mg)	投与量(mg)	投与日
ラムシルマブ	8 mg/kg	#VALUE!		1

<<　タイムスケジュール：開始時刻　>>

※記載している時刻は例です。当日の投与予定時刻ではありませんのでご注意ください。

day1　**1月1日**　（金）

内服　レスタミンコーワ（10mg）５Ｔ　**点滴直前に内服**

0時00分　①　生理食塩液 50mL ＋ デキサート 6.6mg 1V
15分かけて点滴静注

0時15分　②　生理食塩液 100mL
30分かけて点滴静注

0時45分　③　生理食塩液 250mL ＋ ラムシルマブ　*mg*
蛋白質透過型のﾌｨﾙﾀｰ(0.2又は0.22ﾐｸﾛﾝ)を使用する
１時間かけて点滴静注　　0.0 mL

1時45分　④　生理食塩液 100mL
１時間かけて点滴静注
（Infusion reactionの発現がなければ、3ｺｰｽ目以降は変更可）

REFERENCE

Anderew X Zhu, Yoon-Koo Kang, Chia-Jui Yen, et al:Lancet Oncol 2019 Feb;20(2):282-296.10.1016/S1470-2045(18)30937-9
Ramucirumab after sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma and increased α-fetoprotein concentrations(REACH-2):a randomised, double-blind,placebo-controlled,phase 3 trial

2019年7月度化学療法プロトコール委員会承認：2019年7月8日